

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生は、いずれの項目も区や全国の平均正答率を上回っている。基礎・活用の分類では特に「活用」の項目が大きく上回っている。観点の分類では、「思考・判断・表現」の項目が大きく上回った。
- ・2年生は、いずれの分類においても目標値を下回っているが、その中でも、地理的分野では、区の平均正答率を上回った。基礎・活用や観点の分類ではいずれも、解答形式の分類では「選択」と「短答」の項目が区の平均正答率を上回った。
- ・3年生は、地理的分野で目標値を上回ったが、歴史的分野では目標値を下回った。出題形式のうちでは選択問題の正答率が目標値を上回った。

(2) 課題

- ・1年生は、いずれの分類においても、すべての項目で目標値を上回ったが、領域の分類では「我が国の歴史」の項目の平均正答率が低めである。
- ・2年生は、いずれの分類においても目標値を下回っている。領域では歴史的分野、解答形式では記述の項目が全国や区の平均正答率を下回っている。
- ・3年生は、出題形式としては、短答と記述の目標値および全国平均正答率を下回った。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	目標値との比較△		
第2学年	前年との比較▽ 目標値との比較▽	目標値との比較▽ (第1学年時)	
第3学年	前年との比較△ 目標値との比較△	前年との比較△ 目標値との比較△ (第2学年時)	前年との比較▽ 目標値との比較△ (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。	目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均正答率を上回っている。目標値、全国平均正答率のいずれも下回っている。	区平均正答率を上回っている。目標値、全国平均正答率のいずれも下回っている。	

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。	目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。	

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国や区の平均正答率のいずれも上回っている。その中でも「我が国の歴史」に対する正答率がやや低めのため、特に弥生時代や安土桃山時代、明治時代～昭和時代の授業において、日本の歴史に関する基礎的な知識の習得を行えるような授業を行っていく。	目標値、全国や区の平均正答率のいずれも上回っている。その中でも「日本の政治」の日本の選挙年齢の引き下げに関する正答率がやや低めのため、自らの考えを記述するような機会をより増やしていく。	

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均正答率は上回っているが、目標値、全国平均正答率は下回っている。特にヒンドゥー教やアボリジニ、仏教の伝来、惣に対する知識が乏しい。そのため、知識の確実な習得を図るために小テストの実施や学習アプリなどの活用を行う。	区の平均正答率は上回っているが、目標値、全国平均正答率は下回っている。特に藤原氏が権力を握った方法について並びに、中世における中国との貿易に関する記述に対する正答率が著しく低い。そのため、自らの考えを記述するような機会をより増やしていく。	

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均正答率のいずれも上回っている。さらなる知識の確実な習得を図るために小テストの実施や学習アプリなどの活用を行う。また、グラフの読み取りなどを授業の中で取り組む中で抵抗感の軽減を目指す。	目標値、区・全国平均正答率のいずれも上回っている。しかし、記述形式の設問に課題が見られた。複数の資料から適切な情報を導き出す機会を増やす。	